

科目名		音響学(聴覚心理学を含む)		授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 言語音の産出過程の物理を理解する。							
[授業全体の内容の概要] 音の物理的特性、音声の生成、知覚機構、音声の合成、分析について学ぶ。							
[講師の実務経験]							
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 音の物理的性質についての学習							
回数	講義内容						
1	音とは何か?						
2	振動の数学的性質						
3	周波数の定義						
4	周波数と周期						
5	周波数と波長						
6	精神物理学の基礎						
7	ウェーバーの法則と音の心理的感覚						
8	周波数と音階						
9	音圧の定義						
10	対数による単位変換						
11	db値の種類と計算方法						
12	phon尺度の導入						
13	sone尺度の導入						
14	音響心理学の基礎						
15	錯視と錯聴						
16	周波数スペクトル(部分音、基本周波数、倍音)(1)						
17	周波数スペクトル(部分音、基本周波数、倍音)(2)						
18	周波数スペクトル(フーリエ解析)(1)						
19	周波数スペクトル(フーリエ解析)(2)						
20	音声生成の音響モデル(1)						
21	音声生成の音響モデル(2)						
22	音声生成の音響モデル(声帯音源、雑音源)(1)						
23	音声生成の音響モデル(声帯音源、雑音源)(2)						
24	母音の生成(フォルマント)(1)						
25	母音の生成(フォルマント)(2)						
26	子音の生成(摩擦音、破裂音、破擦音)(1)						
27	子音の生成(摩擦音、破裂音、破擦音)(2)						
28	サウンド・スペクトログラム(1)						
29	サウンド・スペクトログラム(2)						
30	フォルマント遷移						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名				著者名		出版社	
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】							
試験、100点満点で評価する。							